

平成29年度 第2回
下水道若手職員によるネットワーク(下水道場)
報告書

国土交通省水管理・国土保全局 下水道部

テーマ「若手職員が抱える課題の共有・解決のためのディスカッション」

開催日時:平成30年2月2日(金)13時～17時

開催場所:経済産業省 別館1111号会議室

参加者数:67名

プログラム

1. 下水道場について(主旨・概要説明)
国土交通省下水道部下水道企画課

八幡 一憲

2. 地方版下水道場の事例紹介・質疑応答
香川県 土木部下水道課
沖縄県 土木建築部下水道課
三重県 県土整備部下水道課

佐々木優太 氏
宮國涼 氏
山本和明 氏

3. グループディスカッション

(1) 班別議論

「職種別・下水道業務経験年数別に
若手職員が抱える課題」

4. 他の班との意見交換会

5. 発表



地方版下水道場の紹介

- 「うどん県下水道場」(香川県)
- 「沖縄県版下水道場」(沖縄県)
- 「まるみえ下水道塾」(三重県)

※3県とも今年度新規に地方版下水道場を開催しました。

地方版下水道場を開催したことのある県の職員の皆様に、開催内容の紹介、開催した理由、苦労話など開催経験者ならではのお話をして頂きました。また、会場からの質疑応答にも答えて頂きました。

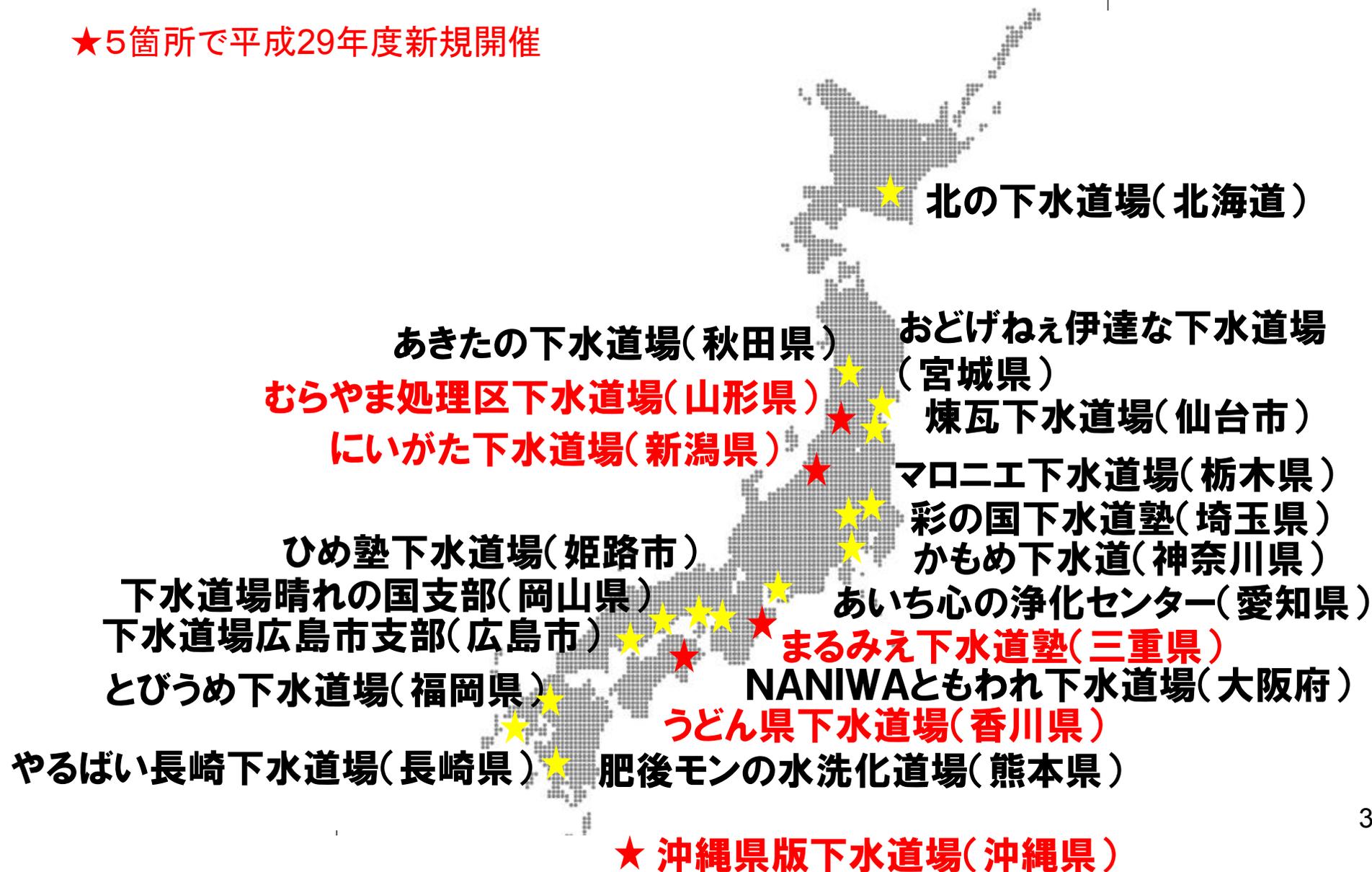


地方版下水道場 開催状況

地方版下水道場が全国各地で設立

全国20箇所で開催 (平成30年1月末時点)

★5箇所で平成29年度新規開催



ディスカッション「職種別・下水道業務経験年数別に若手職員が抱える課題」

若手職員が抱える業務上の課題や疑問、苦労について共有・意見交換し、その課題等に向けた解決策について議論しました。また、職種別・下水道部署配属年数別にグループを編成し、近い境遇の方同士で議論を深めました。



各自が抱えている課題を共有



解決策を検討

発表（若手職員が抱える課題・解決策）

1班

「先輩の知識を盗め！」

業務上の課題

- ・下水道に関する知識が浅い
- ・調査物のとりまとめに時間が掛かってしまう（都道府県職員）

土木
2年未満

解決策

- ・下水道場等に積極的に参加する（横のつながり強化）
- ・所属課の課内で勉強会を開いてもらう
- ・調査物の一覧表を作成し、日程管理や業務量の把握等に活用する

2班

「下水道を知ってもらう」

業務上の課題

- ・下水道の仕事が分かりにくい
- ・下水道に興味がない方々への広報方法
- ・下水道の正しい使い方の周知

土木
2年未満

解決策

- ・工事のデモンストレーションを行う→メディアを活用
- ・女性職員の視点が必要
- ・子どもへの広報強化（子どもから親へ）

発表（若手職員が抱える課題・解決策）

3班

「土木職員の悩み」

業務上の課題

土木
2年未満

- ・現場の経験・専門知識が不足
- ・女性職員（GJ）が少ない

解決策

- ・電気・機械職からの講習会、日常業務を見せてもらう
- ・職種間トレード
- ・下水道のイメージアップ、メディア（ドラマ）の活用
- ・インスタ映えするデザインMH、MHTイレのデザイン、機能性を女子大と研究

4班

「技術の継承と人材育成」

業務上の課題

土木
3年未満

- ・担当業務と後輩（異動者）への指導の両立が難しい

解決策

- ・経験豊富なベテラン職員が指導者につく（中堅職員より余裕がある）
- ・Q&Aマニュアル（業務対応マニュアル）を作成する
- ・下水道知恵袋（全国版）を作成する

発表（若手職員が抱える課題・解決策）

5班

「業務負担の削減」

業務上の課題

- ・人材不足
- ・資料探しの時間ロス

土木
4年未満

解決策

- ・補助監督制度の活用→人によっては業務への取り組み意識が異なる
→再任用の方の活用
- ・技術の継承→事務の方でも進められるようマニュアル作成、道場の開催
- ・リストの作成→文書を移動させた際にリスト化
- ・必要のない情報は保存しない

6班

「ゲスイの極み～円滑に進めるべっきー～」

業務上の課題

- ・若手職員の割合増加と頻繁な人事異動
- ・複雑化・高度化する下水道事業

→ 下水道を
極めていく必要有り

土木
4年未満

解決策

- ・情報ストックツール、マニュアルの作成
- ・チューター制度導入
- ・職員の問合せ窓口の設立
- ・技術指導のアウトソーシング

発表（地方版下水道場の開催案）

7班

「今後の下水道職員の減少への対策について」

業務上の課題

- ・職員数が少ない
- ・質問できる相手がいない
- ・大規模事業の経験者が減っている

解決策

- ・職員のネットワーク作り
- ・職場・職種をまたいだ交流
- ・女性職員が働きやすい職場→休暇が取りやすい、作業服のデザインが良い
- ・行政職の人でも仕事がしやすいシステムづくり

8班

「技術と経験」

業務上の課題

- ・1人が抱える業務内容が多岐にわたる
- ・専門的な業務が多い
- ・経験者が少なく、相談相手がいない

解決策

- ・横のつながり
- ・資料のデータベース化
- ・情報の共有

土木
5年未満

土木
5年未満

発表（地方版下水道場の開催案）

9班

「人材育成と技術継承」

業務上の課題

- ・チェック体制が確立されていない
- ・経験値が少ない
- ・考え方が統一されていない

土木
6～8年
未満

解決策

- ・マニュアルの作成
- ・下水道場の活用
- ・OBの活用

10班

「下水道の広報について」

業務上の課題

- ・工事の理解をいかに得るか
- ・下水道事業の理解をいかに得るか

土木
9～10年
未満

解決策

- ・現場見学会（セグメントに絵・ドローンで上空から記念撮影）
- ・子どもが書いた絵を仮囲いに展示
- ・マモルンダー（ゲリラゴウウーと闘うヒーロー）
- ・小学校への出前講座

発表（地方版下水道場の開催案）

11班

「下水道管のようにつながろう」

業務上の課題

- ・施設の老朽化に伴うトラブル対応に追われている
- ・経験年数が少ない職員が多い
- ・機械職であるが、電気や化学の知識も必要

機械

解決策

- ・維持管理を委託していると言えども、現場に出向き、委託業者との関係を密にする
- ・故障対応や修繕履歴をデータとして保管し共有を図る
- ・コミュニケーション（飲みニケーション含め）

12班

「下水道の接続」

業務上の課題

- ・下水道区域内の住民への接続のお願い（浄化槽からの切替）
- ・指定工事店に対する指導（無断接続）

事務

解決策

- ・補助金
- ・条例による接続手続きの明文化
- ・事務処理のスピードアップ（処理期間の明示）

発表（地方版下水道場の開催案）

13班

「効果的な技術継承について」

業務上の課題

化学
電気
環境

- ・人・・・教える側・学ぶ側の温度差（個人差）がある
- ・物・・・技術継承のツールが不足している（紙ベース資料のみ など）
- ・制度・・・「教える↔学ぶ」の機会不足

解決策

- ・人・制度・・・「教える↔学ぶ」の機会を作る（若手間の失敗事例の共有など）
- ・物・・・ポイントを抑えた必要最低限の知識、技術等のマニュアルを電子データで作成

→検索のしやすさ向上

→将来的には他都市と共有できたら・・・



